

2022年 (日) 接続開始

参加費：県連協・県指連協加盟 2,000円 未加盟：3,000円

第50回 埼玉の学童保育とともに！！ 埼玉県学童保育研究集会 オンラインZOOM

子どもたちに生き生きとした放課後を！

■申込方法

*申込は準備の都合上**5月20日(金)**までにお願います。
お申し込み・参加費振り込みは下記 URL をご覧ください。



この下の URL をクリック

<https://drive.google.com/file/d/1vNgOI520FXJyj1FP2C8yYMJ-xYHMuiBU/view?usp=sharing>

*

- 全体会** (11:45 接続開始・12:30 開会)
主催者あいさつ 埼玉県学童保育連絡協議会 会長
基調報告 埼玉県学童保育連絡協議会 事務局長
勤続表彰 10年、20年、30年勤続指導員

- 記念講演** (13:00～14:45)
三木 裕和さん (立命館大学産業社会学部教授)

- 14分科会** (15:00～17:30) ※裏面参照

*

* 記念講演 *

子どものココロを理解する ～保護者と指導員へのメッセージ～

三木 裕和さん (立命館大学産業社会学部教授)



〈プロフィール〉

1955年兵庫県生まれ。関西大学文学部哲学科卒業。兵庫県立特別支援学校教諭を経て、2021年3月まで鳥取大学地域学部地域教育学科教授、2022年4月より立命館大学産業社会学部教授。

●主な著書に『人間を大切にすること 特別支援教育時代の教師・子ども論』(全研出版部)、『自閉症児のココロー教育、医療、心理学の視点から』(クリエイツかもがわ)、『希望でみちびく科学 障害児教育ホントのねうち』(同) など。

発達的に子どもを理解することが大切だと言われるが、それは、子どもを「発達の物差し」で測るのではない。「できない」の一覧表をこしらえて、それで子どもを分かったとすることでもない。

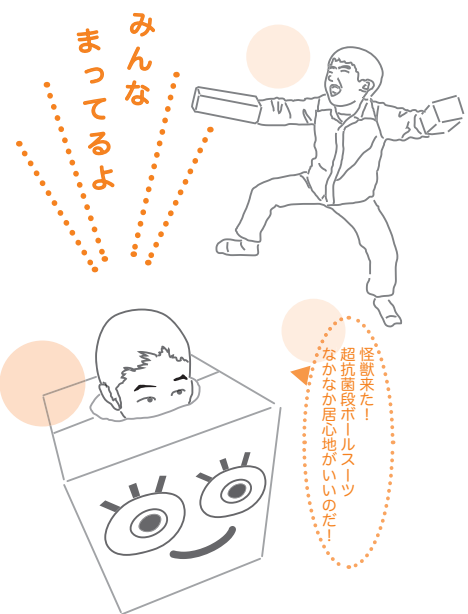
発達を学ぶことで、私たちは、子どもの身になって世界を見ることが出来る。その子にとっての「できなさ」の意味が分かり、「できなさの中に潜んでいる輝き」を知る。一見後ろ向きに見える姿勢の中に、「もっといい自分になりたい」という願いがあることを知る。それは、「できないのなら、さっさとできるようになりなさい」という視線とはまったく異なるものだ。

「希望でみちびく科学 児童教育ホントのねうち」より

ての

保護者も指導員も語り合う学び合う50回目の学童保育研究集会

質を求め 学童保育の



主催 埼玉県学童保育連絡協議会
埼玉県学童保育指導員連絡協議会
(一社) 子ども・放課後サポートセンター

分科会 保護者も指導員も語り合う・学び合う・学童保育の研究集会

11:45 接続 12:30 開会

14:45 15:00

17:00

受付	全体会（記念公演等）	14 分科会
----	------------	--------

《パネルディスカッション》

1 学童保育の毎日って？
～指導員・保護者それぞれの立場から～
世話人 ● さいたま市東小学学童保育支援員 佐藤 正美 他

学童保育の毎日にはいろいろな場面があります。時間を忘れて遊びに夢中になったり、友だちとケンカをしたり、時には指導員に叱られたり…。ベテラン保護者や指導員、元ガクドウっ子がパネラーとして登場。

2
講師 ● 大阪健康福祉短期大学教授 代田 盛一郎

「学童保育での生活は子どもたちの『遊びたい!』という気持ちや環境、心地よい笑顔と笑い声に満ちた共感あふれるものであってほしい」（代田盛一郎氏）。子どもにとっての遊びと生活の大切さを学びます。

3 子どもたちの声に耳をすまして
～親として学童保育としてできること
講師 ● 和歌山大学教育学部講師、元小学校教諭 土佐 いく子

知識偏重から考える力重視に変わりつつある日本の学校ですが、このコロナは学校や教育のあり方を問うています。いま学校と先生たちはどういう状況にあるのか。親として学童保育としてできることを考えます。

4 新型コロナウイルスの下で子どもの日常生活を
どう取り戻すか ～家庭で学童保育でできること
講師 ● 精神科医師、子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長 田中 哲

コロナ禍、学童保育は、感染症防止と子どもの生活保障の狭間で緊張した活動を強いられています。日常を取り戻すために家庭と学童保育でできることを学びます。

5 子どもと共に今を生きる
～子どもの見方・支援の視点～
講師 ● 東京都立大学人文社会学部准教授 杉田 真衣

学童保育には、障害のある子、児童虐待が疑われる子、個別の支援を必要とする子、LGBTの子もいるかもしれません。そうした違いを受け入れあえる学童保育や社会でありたいと思います。

6 「子どもの貧困」の問題を考える
講師 ● (一社) 彩の国子ども・若者支援ネットワーク代表理事 白鳥 勲

子どもの貧困は7人に1人。経済的に困窮しているだけでなく、社会的に孤立し、自らSOSを発することが難しいとも言われています。貧困の実態とその問題点を学び、私たち大人が、学童保育が何ができるかを考えます。

7 ストップ！ 児童虐待
講師 ● 児童養護施設日照養徳園職員・里親支援専門相談員 関 貴教

児童虐待の件数が増え続けています。背景には、家族や近所づきあい等の地域のつながりが弱まり、親が子育ての悩みをだれにも相談できないまま孤立を深めてしまうことがあるとも言われています。

8 おやつ・食事を通じた生活づくり
～子どもと営む学童保育の「食」の時間～
講師 ● 宮城学院女子大学生生活科学部名誉教授 平本 福子

学童保育のおやつは、①発達期にある子どもの捕食として②「ほっとする時間」として③生活者としての力を育てる役割があります。コロナ禍で制約の多いおやつですが、おやつの意味と併せて、どのように提供するかを考えます。

9 子どもとネット どう付き合えばいいの?!
講師 ● 大東文化大学文学部教授 渡辺 雅之

子どもたちは現在、ネット・スマホという情報環境の中で「人間関係」をつくり出しています。便利さの反面、ネット犯罪に巻き込まれないか等、親としては心配もあります。どう向き合っていくかを考えましょう。

10 「思春期」を考える／高学年問題／性の問題
講師 ● さいたま市若者自立支援ルーム統括責任者 金子 由美子

子どもは、小学校中・高学年あたりから、幼少期の頃とは変わってきます。親子間のコミュニケーションも変化してきます。指導員に対しても生意気な口をさくようになります。思春期特有の問題を考えます。

11 発達障害の子どもを理解する
講師 ● 立命館大学産業社会学部教授 三木 裕和

今日、多くの障害のある子どもたちが入所しています。障害の診断はされていないが、困難を抱えている「気になる子」といわれる子どももいます。そうした子どもたちをどう理解し、支援していくかを考えましょう。

12 指導員と一緒に作る・考える保護者会
世話人 ● 日高市ラッキー学童保育室保護者 加藤 春菜
● 日高市高麗川学童保育室指導員 左治木 乃郎

「保護者会はわずらわしい、役員が決まらない」という声も聞かれる一方、「父母会のなかで子育ての悩みが共有できた」「行事が楽しい」という声も。保護者会を盛り上げるのも指導員の仕事？指導員と一緒にどう保護者会をつくっていくかを考え合います。

13 親としての悩みを考える
宿題、ゲーム、おこづかい エトセラ
講師 ● 皆野町立三沢小学校教諭 上野 琢也
世話人 ● さいたま市宮原小学学童保育はちのすクラブ指導員 中野 実雄

小学校の子どもは親として、子育ての悩みは尽きません。「宿題をきちんとしてほしい」、「ゲームばかりしないでほしい」、「お小遣いはどの程度でどう考えたら良いのだろう」等々、学校の先生と指導員も一緒に考え合います。

《パネルディスカッション》
14 指導員が語り合う新任からベテランまで
世話人 ● 川越市広谷学童保育室支援員 菊地 妙子 他

「子ども・保護者との関わりが難しい」「何年働き続けられるかしら」指導員としての悩みは尽きません。1年、3年、5年、10年目の指導員から仕事の楽しさ・しんどさ、希望や悩みを出し合います。